

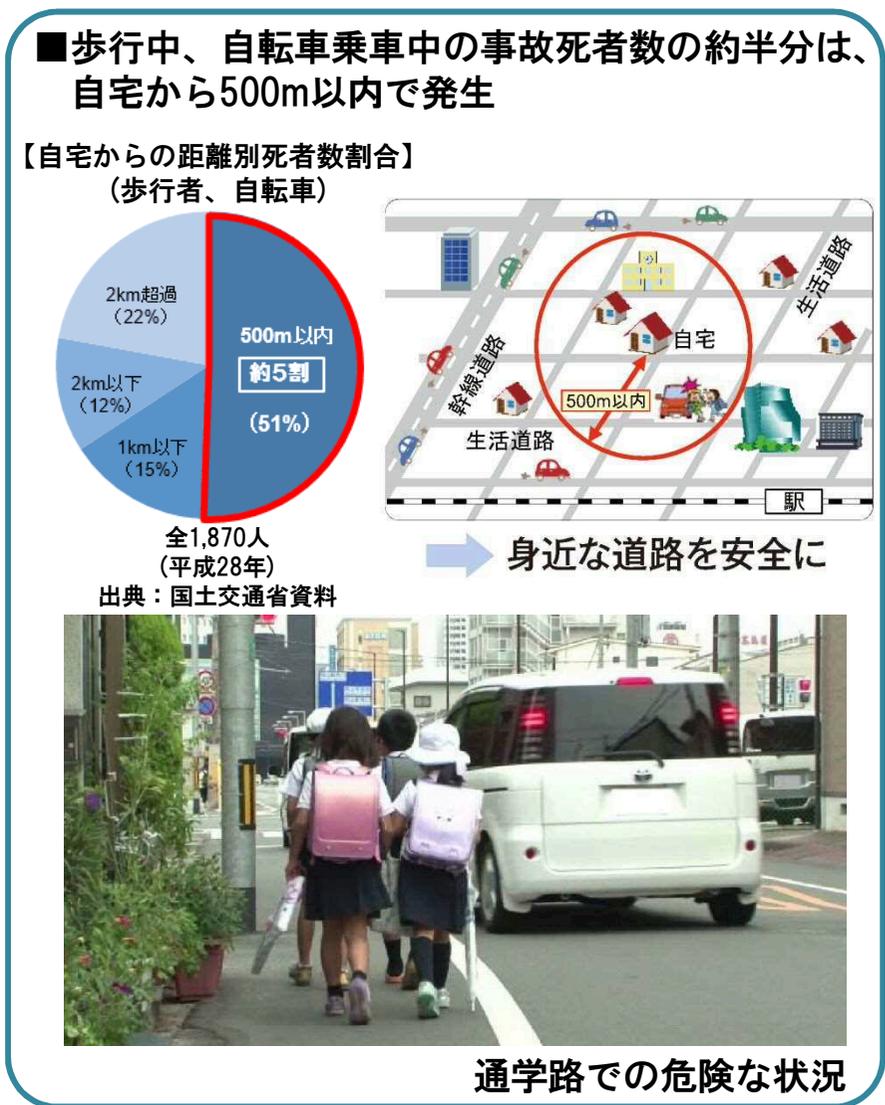
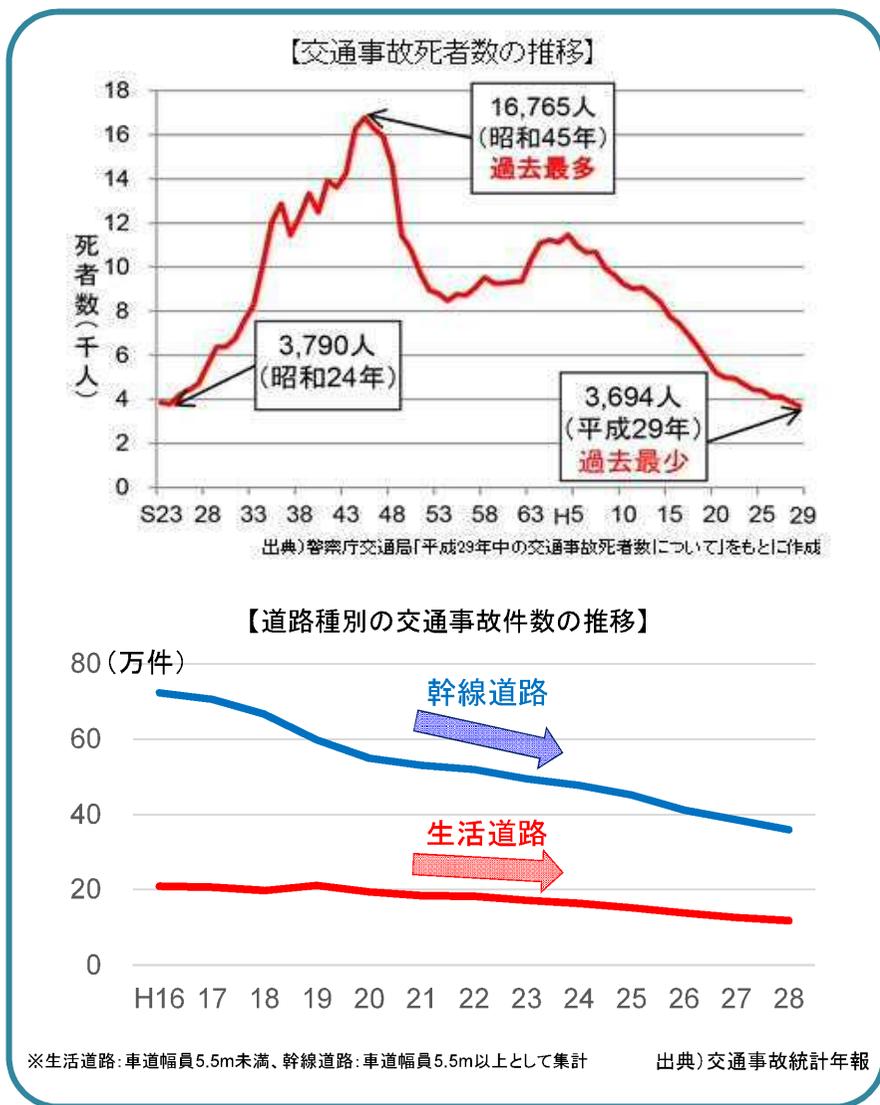
暮らしの道を安全にし、安心できる地域づくりを支援します
－ 生活道路における道路安全診断 －



(一社)交通工学研究会 道路安全診断事務局
問い合わせ ☒ E-mail : rsaj@jste.or.jp

生活道路の交通事故は減少割合が小さく、身近な場所で多く発生しています。

交通事故の死者数は大幅に減少しているものの、**生活道路の交通事故は減少割合が小さく、また、自宅から500m以内の身近な道路で事故が多く発生しています。**



「道路安全診断」により、地域の交通安全の課題解決を技術的にサポートします。

■道路安全診断とは？

⇒道路・交通安全の**専門家**(学識経験者等)が**地域の課題、対策案**について、**技術的アドバイス**を行う仕組み

道路・交通安全
の専門家



市町村等の
道路管理者、
地域住民等

■道路安全診断のメリット

○道路管理者の対策にあわせて、**ゾーン30等の警察の対策**も検討します。

○市町村管理の生活道路だけでなく、近接する幹線道路も対象に**面的に安全対策を検討**します。

○**技術基準***を踏まえて、**適切な対策**を提案します。
※凸部、狭窄部及び屈曲部の設置に関する技術基準
(2016年制定)

○専門家が助言・提言することで、**住民との合意形成を円滑に図る**ことができます。



ゾーン30とハンプの組合せ



住民との合意形成

ビッグデータにより課題を特定し、住民の問題認識を高めます。（その1）

ビッグデータの分析※により、実態を把握しづらい「**抜け道交通**」を見える化します。
朝の通学時間帯など、**時間帯を絞った把握も可能**です。

新潟市の事例



新潟市中央区
日和山小学校地区



●エリア内を通過するトリップ数(通過台数)の割合※の把握



- ・エリア内を通過する=エリア内に起終点(出発地、目的地)がなく、通過する(素通りする)
- ・エリア内を通過するトリップ数の割合(%)=エリア内を通過するトリップ数/エリア内を通行するトリップ数

●対策検討区間の全通過トリップの時間帯別割合



出典：国土交通省資料

※事例は、ETC2.0の走行履歴等データによる分析。「生活道路対策エリア」による支援(国土交通省) ⇒「生活道路の交通安全対策に関するポータルサイト」(国土交通省)を参照下さい。

ビッグデータにより課題を特定し、住民の問題認識を高めます。（その2）

地区内の課題として、**速度超過する車両が多い、急減速が多発している等**を“見える化”し、住民の**問題認識**を高めます。

新潟市の事例

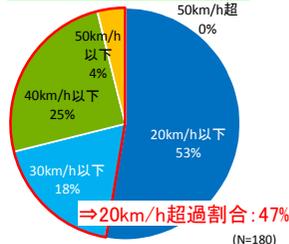
速度：道路区間別の30km/h超過割合



エリア内の速度分布

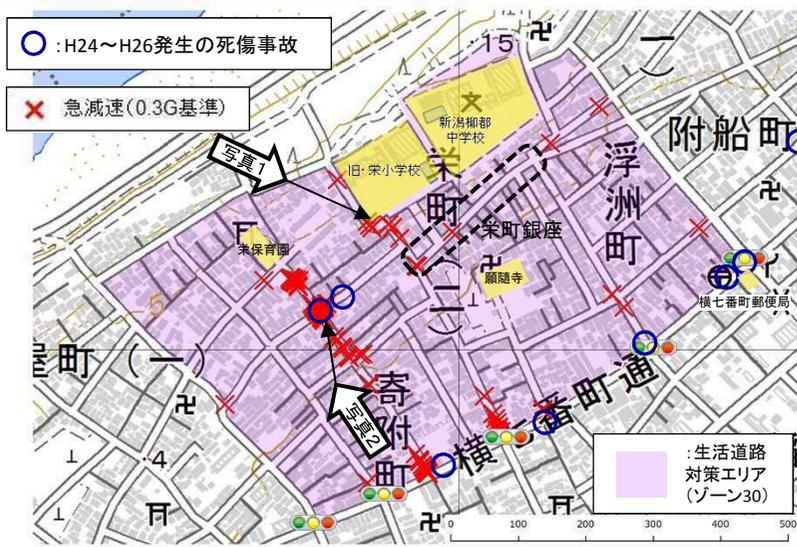


栄町銀座の速度分布



【出典】1. 国土交通省資料
2. 履歴点データ:ETC2.0プローブデータ(H27.4~H28.3)
3. 背景地図:国土地理院

急減速 (0.3G*以上急減速発生地点)・事故発生地点



※0.3Gの急減速：バスにおいて吊革にしがみついて止まる減速度



カーブ区間の状況



道幅が急に狭くなる箇所の状況

【出典】1. 国土交通省資料
2. 履歴点データ:ETC2.0プローブデータ(H27.4~H28.3)
3. 背景地図:国土地理院

専門家が課題に対応した効果的な対策の検討を支援します。

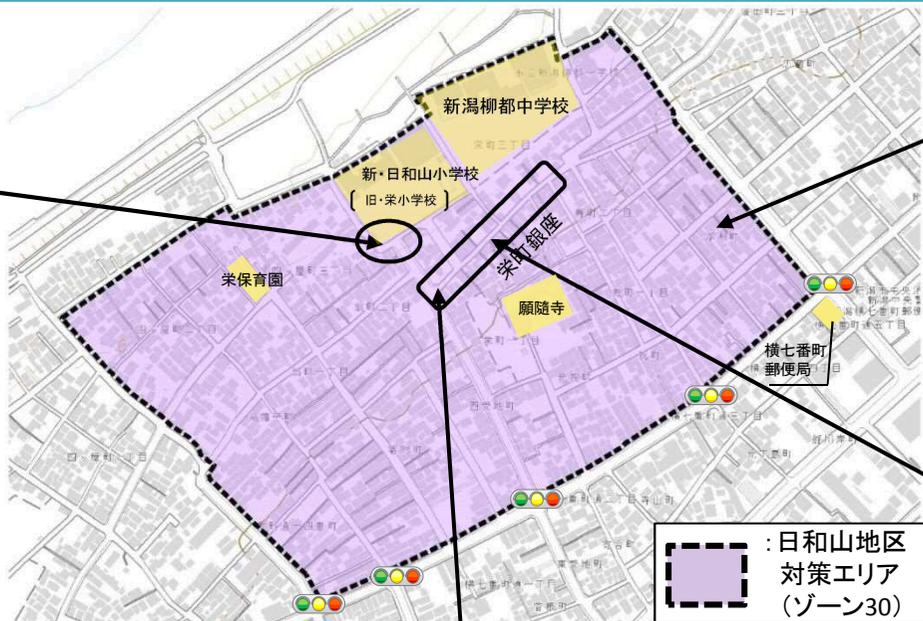
警察が実施する「ゾーン30」等に加えて、道路管理者が実施する**歩行者空間の整備、狭さく、カラー舗装**等の対策を検討し、地域の安全確保を支援します。また、地区内だけでなく、**地区への入口の幹線道路の対策**もあわせて検討します。

新潟市の事例

歩道設置+スムーズ歩道

新・日和山小学校正門

歩道の設置 スムーズ歩道の設置



ゾーン30の指定



狭さくの設置+路面カラー舗装



朝の通学時間帯の通行規制+ライジングボラード設置+路面カラー舗装



※対策は交付金等を活用して実施

安全対策は技術基準を適用するとともに、留意点も考慮して提案します。

生活道路の安全対策は、**技術基準※やマニュアル**に対応し、対策の**留意事項も考慮**して技術的に検討します。

※「凸部、狭窄部及び屈曲部の設置に関する技術基準」(2016年制定)

- 交通工学研究会では生活道路における対策の検討、実施の進め方や留意点をまとめた「生活道路のゾーン対策マニュアル」を発行。
- 自治体等からの要望に応じて**説明、講演**等を行うことが可能です。



- 第Ⅰ部 ゾーン対策の進め方 : 課題抽出、コミュニケーション手法、社会実験等を解説
- 第Ⅱ部 対策手法と留意点 : 交通規制と物理的デバイスの組み合わせ等を解説
- 第Ⅲ部 生活道路対策の事例 : 全国のゾーン対策の取り組み事例を紹介

ハード・ソフト対策を組み合わせた面的な安全対策を提案します。

安全対策は、**自動車の速度抑制**、**地区内への車両進入抑制**などを目的とし、**ハード対策とソフト対策**の両面から検討します。

種類	安全対策メニュー例			
ハード対策	<p>ハンプ (速度抑制)</p> 	<p>狭さく (速度抑制)</p>  <p><small>出典:国土交通省 生産性革命本部第1回委員会資料</small></p>	<p>スムーズ横断歩道 (速度抑制、進入抑制)</p> 	<p>防護柵 (物理的な分離)</p> 
	<p>カラー舗装 (注意喚起)</p> 	<p>カーブミラー (事故防止)</p> 	<p>グリーンベルト (注意喚起)</p> 	<p>ライジングボラード (進入抑制)</p> 
ソフト対策	<p>ゾーン30 ※ (速度抑制)</p> 	<p>最高速度規制 (速度抑制)</p> 	<p>一方通行化 (進入抑制)</p> 	<p>※ゾーン30とは… 生活道路における歩行者や自転車の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つです。区域(ゾーン)を定めて時速30キロの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度や通り抜けを抑制します。 (警視庁HPより引用)</p>

専門家が 地域住民との円滑な合意形成を支援します。

地域住民、警察、道路管理者等との協議会、ワークショップ、通学路の合同現地地点検等の場で専門家が助言し、円滑な合意形成を支援します。

新潟市の事例

■地域協働による推進体制の構築

(通学路の交通安全確保の推進体制等の活用)



■新潟市日天山小ワークショップ

<構成メンバー>

- ・日天山小学校、PTA、交通安全推進協議会、新潟柳都中学校、日天山小セーフティスタッフ
- ・コミュニティ協議会、関係自治会
- ・埼玉大学、新潟青陵大学、(公財)国際交通安全学会
- ・国土交通省、新潟中央警察署、新潟市

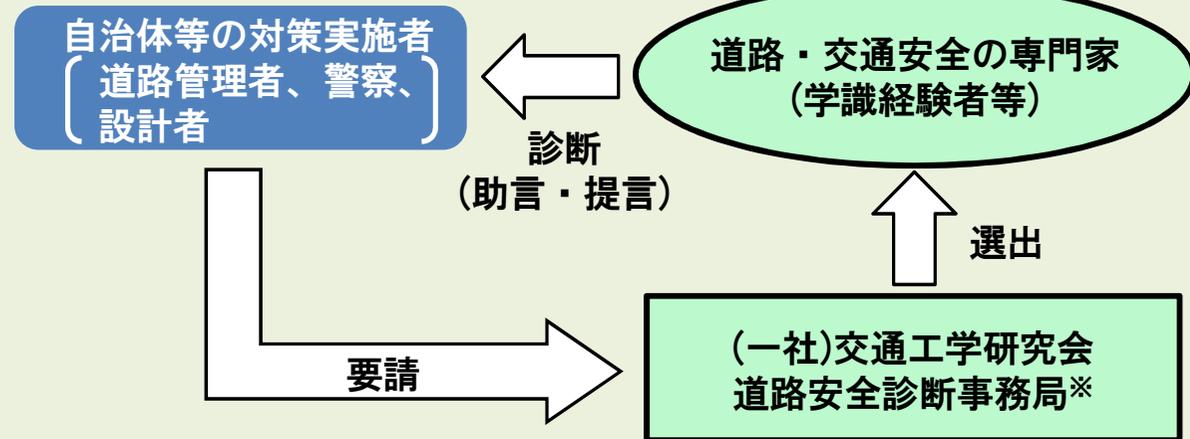


新潟市日天山小ワークショップの開催状況

専門知識・経験が豊富な専門家が技術的にサポートします。

交通工学研究会では、**道路・交通安全の専門家**を紹介し、**マニュアル等に基づいた技術的助言、ビッグデータ分析、対策エリア登録等**をお手伝いします。

■ 専門家の紹介(技術的助言)



■ レンタルハンプによる社会実験



■ 生活道路ゾーン対策マニュアル



■ ビッグデータによる分析結果の提供



■ 参考：関連予算の活用

道路事業における
防災・安全交付金の重点配分
⇒ **通学路における交通安全対策
に対して重点配分**
※詳しくは国土交通省道路局HPを参照

□ (一社)交通工学研究会の支援 □ 国土交通省の支援



一般社団法人 **交通工学研究会**
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-23

<http://www.jste.or.jp>